

折に触れ 四字熟語

NO. 299 『杯中蛇影』 はいちゅうのदैい

< 意味 > ひとたび疑い出せば、本当はなんでもないことでも、自分を害するのではないかと思ひ悩み、心を疲労させてしまうたとえ。また、病気は必要以上に気にやむことから起こるというたとえ。杯の中に映った蛇の影の意から。

< 出典 > 『風俗通義』怪神

< 故事 > 中国漢の杜宣^{とせん}は友人の家で飲んだときに、自分の杯に映った弓の影を蛇の影だと思って不吉に感じたが、杯を断るわけにいかず飲み干し、それを気にして病気になってしまった。その後、それが弓であったことを知ると、病気は治ってしまったという故事から。

表 言 : 杯中の蛇影にすぎない

用 例 : 彼女は一層疑惑をふかめ、盃中の蛇影を見るに違いない。<石川達三・結婚の正態>

語 釈 : 「杯」は「盃」とも書く。

一 言 : ある日の我が家の日めくりことわざカレンダーに載っていました。私は身体の異変に気を遣うたちなので耳に痛い言葉です。

参考文献 : 岩波書店「四字熟語辞典」